2Ia-7

黒羅紗地裾赤羅紗地山形模様陣羽織の調査と復元

河村まち子'　○石井美奈子"
（'共立女大　"東北生活文化大）

目的　仙台市博物館所蔵の黒羅紗地裾赤羅紗地山形模様陣羽織（伝　伊達政宗着用）の復元にあたり、この陣羽織の詳細な調査を行った。これにより、先出の調査報告において不明確であった部分や異なるところについて明らかにし、また、実際に復元することによりこの陣羽織の製作に関する構成方法の状況などを考察することを目的とした。

方法　縫製方法や各部の・衿　・袖ぐり　・前紐などを重視して実物の調査をおこない同時に、先出の調査報告との比較・検討をおこなった。次に、黒と赤の羅紗地を用いて、実物通りに陣羽織の作成をした。

結果　この陣羽織は伊達政宗着用と伝えられた16世紀ごろのものと考えられる。当時舶載された羅紗地や金モールを使用し、外見は同時期に南蛮屏風に描かれた人物達が着用しているマントに類似している。しかし、復元のためにその展開図を作成すると、・肩さがり　・前さがりがなく、ほとんど平面的に裁断されていることがわかった。ただし、縫製してみるとこれらが出現し、立体的な西洋の被服形態となった。以上のことから、この陣羽織は、・形状　・裁断方法　・構成方法がその後の陣羽織の原型となっているのではないかと考えられる。